

水稲育苗ハウスを活用した ぶどう短梢せん定オールバック1本主枝栽培法の実証

会津農林事務所農業振興普及部

会津地方革新技術実証協議会(会津農林事務所、会津管内13市町村、会津よつば農業協同組合、全国農業協同組合連合会福島県本部会津営農事務所、福島県農業振興課、農業総合センター)

1 実証の背景・概要

(1) 背景

- 現状: 稲作農家の経営安定には、園芸品目との複合化により所得向上を図る必要がある。
- 改善方向: 水稲育苗ハウスを有効に活用し、ぶどうをハウス内で栽培することで所得向上を目指す。

(2) 実証の概要

○導入機材及び面積

実証面積: 4.32a(5.4m × 40mの簡易パイプハウス2棟分)

導入機材: 果樹棚、遮光シート「明涼」、換気設備「ボルナドファン」、防虫網(赤色0.8mm)、かん水設備(自動タイマー付き)

導入品種: 「シャインマスカット」4本、「BKシードレス」2本、「バイオレットキング」2本

○技術の概要

- ・樹形は、短梢せん定オールバック1本主枝である。短梢せん定はせん定方法や新梢管理が容易であるため新規栽培者でも管理しやすい。
- ・防虫網と水稲育苗ハウスによる雨よけ栽培により、農薬の散布回数を削減できる。
- ・換気設備と遮光シートにより、高温障害の低減を図る。

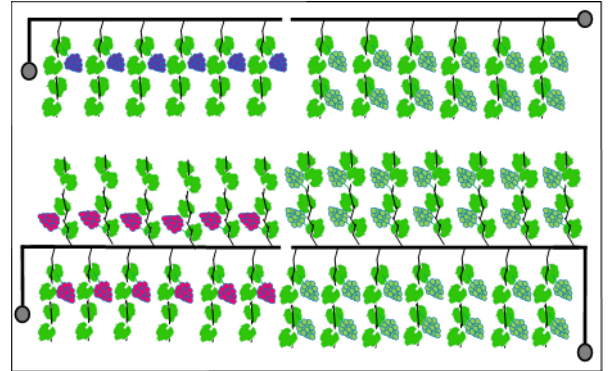


図1 ぶどうの植栽と収穫時のイメージ図

2 実証の成果

(1) 成果

- 2年目で22房がなった。一部をハクビシンに食害されたが、10房を収穫することができ、会津地方の大規模な水稲生産者でもブドウを支障なく生産することが可能であることが実証された。
- 遮光シートを設置しなかったハウスでは、4樹全ての樹の主枝延長枝の先端部が高温障害を受けた(100%)が、遮光シートを設置したハウスで高温障害を受けたのは4樹のうち1樹のみ(25%)であった。



図2 実証ほ管理責任者の作業の様子



図3 収穫果

(2) 導入による産地への効果

- 稲作農家の育苗ハウスを有効活用することで導入コストを低減できる。
- 高収益園芸作物の導入で所得向上と労働力の分散が図られる。

3 実証担当農家・産地より

- 水稲生産者にとっては、ブドウは田植え等がある春の繁忙期に作業が重ならないため導入しやすい。
- ブドウは女性や高齢者でも取り組みやすく、水稲生産における余剰労働力をうまく活用すれば高収益園芸品目のなかでも高い収益性が期待できる。今後も取り組んでいきたい。
- ハクビシンに食害を受けたのは想定外だったが、今後は鳥獣害対策にも力を入れたい。

経営モデル

会津農林事務所農業振興普及部
作物名：ブドウ

水稲農家が10aの水稲育苗ハウスでブドウを導入した場合を想定した経営モデル。

前提条件

項目	内容
想定モデル規模	労働力 4名
	栽培面積 水稲 30ha 水稲育苗ハウス 20a
栽培方法	作型 5a (育苗ハウス内)
	施設 間口5.4m×長さ40m 2棟
	栽植様式 栽植本数8本
	植栽距離 20m×2.7m

導入コスト

資材名	数量	耐用年数	金額(円)
果樹棚一式	2	14	240,903
換気ファン	4	5	98,496
防虫網		3	59,199
かん水設備一式		5	90,391
遮光被覆資材		2	72,770
果樹種苗費	8	15	34,600
持ち手付き踏み台	1	5	11,400
合計			607,759

※5a分の導入コスト

項目	技術導入前又は慣行 (面積：5a)	技術導入後 (面積：5a)
生産量 t	0	0.5
(生産量 (t) /10a)	0	1.0
販売額 (千円)	0	816
(単価円/kg)	0	1,632
経営費 (千円)	0	324
うち 種苗費	0	0
肥料費	0	8
農薬費	0	11
小農具費	0	14
諸材料費	0	2
光熱動力費	0	3
流通経費	0	163
減価償却費	0	123
雇用労働費	0	0
その他※	0	0
農業所得 (千円)	0	492

※その他：賃借料、共済掛金など

補足説明 (注意事項等)
<p>○水稲育苗ハウスにおけるブドウ栽培を導入した場合、125kg/10a以上収穫できないと所得が増加しない。</p> <p>○単価はシャインマスカットを生産した場合の単価である。</p> <p>○樹齢や樹勢によって収穫量が変わる。</p> <p>○面積5aの場合の試算であり、10aでブドウを栽培した場合、生産量・販売額・経営費・農業所得の項目は金額がそれぞれ2倍になる。</p>